

学会長  
インタビュー

## The Psychiatrist in Japan

— 第16回 —

# 日本うつ病学会総会

第16回日本うつ病学会総会 会長  
徳島大学大学院医歯薬学研究部精神医学分野教授

大森 哲郎

気分の臨床

～心と脳の重なるところ～

2019年7月5日(金)・6日(土)  
あわぎんホール(徳島県郷土文化会館)

日本うつ病学会は、うつ病や双極性障害の臨床と基礎研究の発展・充実、およびより質の高い医療の提供を目指して、2004年に設立されました。現在、会員数は1,500名を上回り、医師や医学研究者のみならず、看護師、臨床心理士など幅広い分野の職種で構成されています。

きたる2019年7月5日・6日に徳島市のあわぎんホール(徳島県郷土文化会館)にて第16回日本うつ病学会総会が開催されます。同総会会長を務められる大森哲郎先生に、大会の狙い・プログラムの見どころについてお話を伺いました。

### テーマは「気分の臨床 —心と脳の重なるところ—」

2019年7月5日(金)・6日(土)に徳島駅からほど近いあわぎんホール(徳島県郷土文化会館)にて第16回日本うつ病学会総会が開催される運びとなり、同総会会長を務めさせていただくこととなりました。

今回の総会テーマは、「気分の臨床—心と脳の重なるところ—」といたしました。うつ病や双極性障害などの気分障害は、将来的にはより身近な疾患としてのニュアンスを含んだ“気分症”と呼称されるものと思われませんが、臨床場面では病像が明瞭

に形成された気分障害のみならず、閾値下の気分の症状を広く扱っているという現状を踏まえ、気分に関連する諸問題を幅広く議論したいという思いからメインタイトルを「気分の臨床」としました。また、精神疾患は心の問題(心理社会的要因)でもあり、脳の問題(生物学的要因)でもあるという点で共通していますが、とりわけ心と脳の重なりが最も際立って意識されるのが気分の臨床であることから、副題を「心と脳の重なるところ」としました。

近年、先端的な脳科学研究から、気分障害における脳の生物学的要因がさまざまに示唆される一方で、

心の問題の背景にある心理社会的要因についても多大な関心が払われ、研究が進められつつあります。今回の総会では、先端脳科学的立場から心理社会的立場に至るさまざまな観点からの研究発表がなされることで、気分の臨床について深く掘り下げていければと考えています。

### メランコリア概念の意義を 再考する

今回の総会では、初日の特別講演として、メランコリア概念の復権を一貫して主張しているGordon Parker先生をお招きして、「Modeling,